

【10-3-1】 主要科目の特長（経済学部経済学科）

経済学科のカリキュラムを構成する各科目群・分野の内容は次のとおりです。

(1) NGU 教養スタンダード科目

キリスト教に関する科目

＜キリスト教＞に関する科目は、キリスト教主義大学である本学の核心です。必修科目の「キリスト教概説」「キリスト教学」では、世界の文明に大きな役割を果たしたキリスト教を、人間、歴史、社会、生命などとの関わりにおいて考え、世界に通用するしっかりとした人間観・世界観を築く足がかりとします。

自己理解と自己開発に関する科目

1年生の必修科目である「基礎セミナー」では、少人数クラスで「大学で学ぶことの意義」についてを理解し、有意義な大学生活を送る足がかりを形成することを目的としています。さらに、大学での学びを促進させるスキルの習得をめざして、授業を受ける技術、プレゼンテーションの技法、情報検索の方法など、2年次以上のゼミナール活動の基本となるスキルについて学ぶことを目標としています。また、「キャリアデザイン 1a～3b」などの科目を配置して、「将来なりたい自分とは何か」についてしっかりしたイメージを養うとともに、職業を考え将来のキャリアを設計するための足がかりとします。

社会的教養に関する科目

＜人間理解＞、＜社会理解＞、＜自然理解＞、＜歴史文化理解＞、＜環境理解＞、＜身体理解＞（＜身体理解＞）、＜地域理解＞

自分で考える力を養い、深みのある人間性を身につけるためには専門の学修だけでなく、一般教養の修得が欠かせません。文学、哲学、心理学を学ぶ＜人間理解＞、社会のしくみを考える＜社会理解＞、自然をさまざまな角度からながめる＜自然理解＞、人間や世界の文化や歴史を学ぶ＜歴史文化理解＞、地球環境や生態系について考察する＜環境理解＞、スポーツの実技と理論、健康について学ぶ＜身体理解＞（＜身体理解＞）、まちづくりを多様な視点から考える＜地域理解＞の中から、バランスのよい履修を心がけてください。

言語とコミュニケーションに関する科目

外国語については、「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」の6カ国語を学ぶことができます（リハビリテーション学部、スポーツ健康学部は英語科目のみ）。また、「手話」や「日本語表現上級」も学修することができます。

情報理解に関する科目

情報教育の充実は、本学の大きな特色です。全学生にノートパソコンを配付し、すべての学生がコンピュータを使って学べるように指導しています。必修科目の「情報処理基礎」では、コンピュータやネットワークの基本的な利用方法を半年間でマスターします。

教職に関する科目

ここに設置されている科目は教員免許取得をめざして教職課程に加入している者だけが受講できる科目です。実際に教員免許を取得するためには、教職課程履修規程にもとづき、この領域の科目に加えて、その他の指定された科目を履修する必要があります。

(2) 専門科目

《専門科目》は、《学科基幹科目》、《学科展開科目》、《学科関連科目》によって構成されています。また、オープン科目として他学部《専門科目》の一部履修を認め、経済学だけではない幅広い専門知識の修得をめざすことができます。

①《学科基幹科目》

《学科基幹科目》には、経済学理論の基礎を修得させる「ミクロ経済学入門」「マクロ経済学入門」（いずれも必修科目）を配置し、教室での講義だけではなく、CCS内の自学自習システムを予習復習に活用した授業運営をおこないます。また、2～4年次には20名前後のクラスによるゼミナール（すべて必修科目）を配置し、小規模クラスでのきめ細やかな学習指導をおこないます（詳細は、「演習科目について」を参照）。さらに、ゼミ担任がクラスアドバイザーを兼務し、学生生活全般にわたる指導・助言をおこなうこととなります。さらには、経済学を学ぶにあたっての基礎的科目と研究活動するための基本的手法を身につける科目群が用意されています。

②《学科展開科目》

《学科展開科目》には、経済学のより専門性の高い科目のみならず、政治学や法律学を含んだ多様な科目を設置しています。個々の学生は、選択した履修コースを参考にして〈経済理論と情報〉、〈応用経済と経済政策〉、〈比較経済と歴史〉、〈法制度と公共政策〉の4つの領域から自由に選択できます。履修コースは、学修とキャリアとの関連を意識させることを意図して設定されています（詳細は、「履修モデル」を参照）。また、体系的・系統的な学習を促すため、科目のきめ細やかな学年配当をおこない、履修コースに沿った科目履修をサポートしています。

③<<学科関連科目>>

<<学科関連科目>>には、「企業研究1・2」のように現場見学をとおして理論と実際との関連づけをおこなう科目や、約85の提携大学での留学を前提とした国際理解科目群を配置しています。また、GPAを基準に成績優秀者を対象として、大学院開講授業を受講できる「上級経済学」を配置し、より高度な学修が可能となる環境も整備しています。

(3) 演習科目

経済学科では、1年次の「基礎セミナー」、2年次の「専門基礎演習」、3・4年次の「専門演習」をまとめて演習科目と呼びます。これら科目は、少人数のゼミナール形式の科目であり、みなさんに対して4年間一貫のゼミナール教育をおこなうこととなります。指導教員の名前をとって、自分は「〇〇ゼミ」に所属していると一般的にいいます。

みなさんは学修のそれぞれの段階で、指導教員のもと、自らの関心を広げ、課題を発見し、研究や討論を通じて問題解決しながら、自分の能力の向上に努めてください。

また、4年間一貫のゼミナール教育で、人格的な交流をとおして、多くの友人関係が育成されるとともに、指導教員との間のコミュニケーションも密接なものとなります。ゼミナールは4年間の学生生活の中核で、大きな思い出となるものです。

①<基礎セミナー>

1年次配当の「基礎セミナー」は、導入・基礎教育となる必修科目です。授業は少人数でおこなわれ、大学で学ぶ基本的な能力を修得するとともに、2年生以上の演習科目の準備段階となります。

「基礎セミナー」では、

- 大学での学修が、高等学校までとどのように違うのか、体験をとおし、実感として理解する
- 大学生活における自己管理方法および、アカデミックスキルを身につける
- 本学の歴史および建学の精神を理解し、大学への帰属意識をもつ

という共通の目標を掲げています。具体的には、以下のような指導がおこなわれます。

- a. 大学での学び方
- b. 文献資料の調査・検索のしかた
- c. レジюме・レポートの作成のしかた
- d. 報告・発表やディスカッションの工夫

②<専門基礎演習>

2年次配当の「専門基礎演習」は、1年次に身につけた次のような技法を、学問に有機的に結びつけることを目的としています。

- 「日本語表現」で培った日本語能力
- 「デジタル・プレゼンテーション」で修得したプレゼンテーション技術
- 「基礎セミナー」で体験したゼミナールでのディベート手法

特に、3年次以降の研究テーマに沿った学修ならびに「専門演習」の準備として、以下のような5つの力を身につけることをめざします。

- a. 課題を発見する力 b. 自分を表現する力 c. とともに議論する力
- d. 問題を解決する力 e. 実践や行動する力

また、効果的な教育のため、少人数で実践的なトレーニングをおこないます。さまざまな問題について議論し、話し合いながら、社会への関心を深めテーマを見つけ出す場となります。講義で学んだ専門的な知識も活かしながら、少しずつ主体的な課題認識能力や問題解決能力の向上を図ることができれば、次年度からの「専門演習」に取り組む準備ができたといえるでしょう。

③＜専門演習＞

3・4年次の2年間にわたる「専門演習」では、大学での学修の総仕上げをおこないます。まず3年次では、みなさんが自ら関心をもつ分野について専門的な研究を深めます。キャンパスを出てフィールドワークをおこなうゼミもあります。

また就職の準備として、社会人の基本的な姿勢なども3・4年生のゼミを通じて学びます。コミュニケーション力、文章作成能力、問題解決力などを実践的に身につけます。ゼミ合宿や社会見学・ゼミ旅行などを通じて、ゼミの先輩や後輩といった関係から授業だけでは学べない体験をするゼミもあります。さらに3年終了時には、研究報告書の提出が求められます。

4年次には、就職活動とともに卒業論文という大きな課題があります。「専門演習」の指導教員のもとで、自らの関心に沿って研究成果として卒業論文としてまとめます。

◎専門科目の一部をピックアップ

マクロ経済学入門

マクロ経済は「デフレ脱却」や「景気」など、身近なテーマと関連深い分野です。本講義ではGDPや物価指数など、マクロ経済の動向を探るために必要な指標の理解など、経済メカニズムを読み解くための基本知識を修得します。

日本経済入門

日本では、国内経済に関する多くの統計データが、他国に比べて長期間かけて整備されています。その豊富なデータ群から代表的な統計データを抽出し、日本が歩んできた経済の歴史を紐解きます。今後の日本経済の行く末も考察していきます。

金融論

株価や為替レートの情報が毎日報道されるなど、金融は私たちにとって身近な存在ですが、お金の流れは複雑です。その流れに関わる、あらゆる経済現象を分析するのが金融論です。理論や分析手法に加え、実際の金融制度や市場の仕組みも学びます。